

# 丘陵地の家

掛川市の北西に位置する、緩やかな傾斜地を造成した場所に建築した丘陵地の家をご紹介します。



「無理なく心地良く暮らす。」

## 新しい地での、スタート。

丘陵地の家と名付けたIさんのお宅は、山の切斜面と言うことで安定した地盤と聞いていましたが、この地盤が建築中に逆の苦勞を生む事に…その話は後程。

Iさんは、ご夫婦其他県のご出身で、仕事の関係で横濱市に住んでいましたが、お子さんの体質や教育環境を考えて、掛川の地を選ばれたと聞きました。合せて、後々ご両親との同居も考えていたこともあり、ご夫婦の出身地の「真ん中」という理由もあつたようです。

そんなIさんとはじめてお会いしたのは、今から2年半ほど前の事でした。すでに土地は購入済みでしたが、横濱に住んでいると言ったことで、打ち合わせの方法や現場を任せる業者について考えていたようです。その後いくつかの現場や完成宅などを見てもらい、木組みや素材の安心感や飾らない雰囲気などを気に入っていただき、設計をスタートしていくことになりました。また、私が掛川に住んでいるという事や年代と言うこともあり、新しい地に暮らして行くという不安を少し取り除いていただいたのかも知れません。

## 頑固な地盤。



Iさんとの打ち合わせは、掛川の現場や藤枝の事務所に来ていただいたり、私達が横濱のご自宅にお伺いしたりしながら、何度かやり取りをしました。約半年程の打ち合わせ期間を経て、いよいよ着工となったのですが…冒頭にも話をした地盤が、想像を超えた形で現れました。地盤調査の時点でおおよその見当はついていましたが、まさかここまで「頑固な地盤」とは…。通常の重機では表面をなめるだけ！振動つきの掘削機に変え、何とか地盤を削っていくことが出来ましたが、予想以上の時

間が掛かってしまいました。

この地域は、泥岩と呼ばれる硬い地盤が一面に広がっています。泥岩は地表に露出した場所では風雨にさらされると風化し易いが、建築物を支える地盤としては、とても強固な地盤です。耐震性を重視していたIさんにとっては、安心した地盤と言うことになりませんが、施工する職人にとつては、何とも苦勞した地盤となりました。

## 無理なく心地良く暮らす。



そんな地盤の苦勞も有りましたが、昨年の秋、無事に建前を向かえ、

今春に完成することが出来ました。

日本瓦の落ち着いた外観で、内部も落とし板の杉板を全面的に現した室内となりました。全体的に飾らない雰囲気の中、蓄熱暖房機やシーリングファン、防露サッシを採用し、無理なく心地よく住む事を考えた家になったと思います。

まだ暮らし始めたばかりですが、初春から夏、初秋を暮らしてみても、だんだんとこの家の事がわかってきたようです。次ページでは、今回の現場で奮闘したコアラボ夏梅が、Iさんから住み心地を伺いながら、特徴や工夫点を御紹介させていただきます。

コアラボ／山崎健治



床・壁・天井のほとんどが杉板で作られた室内ですが、玄関式台に鬼胡桃、ダイニングテーブルにセンの一枚板など広葉樹も取り入れた。



リビングからダイニングを見た様子。リビング・ダイニング・キッチン、大空間のワンルーム。ハイサイドからの朝日が眩しいくらいです。



軒裏の様子。垂木がリスミカルでとても綺麗です。

# 初めての現場を終えて。▶▶



この泥岩の岩盤には、最後まで職人さん達が掘るのに苦労したツワモノです。削岩機を取り付けた重機を使った作業は、迫力がありました。



この「丘陵地の家」は、私が設計から完成まで担当した初めての現場です。現場が始まると、ほぼ毎日現場へ通い、大工さんや様々な職人さん達の仕事を見る事や、現場で少しお手伝いをさせてもらう等、様々な経験をさせてもらいました。そんな現場の様子を、少しですがお伝えしたいと思います。(コロポ/夏梅真澄)



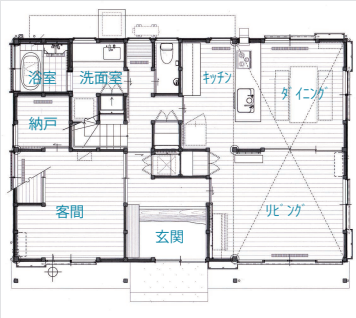
奥さんのお父さんがレンガ職人という事もあり、現場の途中で蓄熱暖房機の後ろの壁を、お父さんが施工されました。



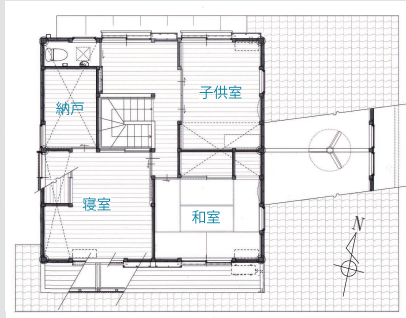
大工さん達がカケヤを使い、約一ヶ月ほどかけて刻んだ柱や梁を納めていきます。組立順序や柱の傾きなど必要所で、棟梁のチェックが入ります。



棟木が納められると、完成後の形も見えてきます。建前には、応援の大工さんやレッカーさんも来てくれます。レッカーさんも、車を降りて梁や落とし板を入れるのを手伝ってくれました。



1F



2F



仕様内容	
家族構成	家族3人
敷地面積	300.00㎡
建築面積	87.25㎡
延べ床面積	132.50㎡
構造	木造
躯体	2階建て
外部仕上	三州いぶし瓦葺き
外部壁	ガルバリウム鋼板海渡板張り
外部建具	防露サッシ/窓(ペアガラス)
天井	杉本葉板張り
内部仕上	杉本葉板張り
内部壁	杉本葉板張り
内部床	杉本葉板張り
内部建具	杉本葉板張り
浴室	青森ヒバ板張り+サマーマイル貼
洗面	洗面/オリジナル
設備	キッチン・洗面/オリジナル
浴槽	浴槽/オリジナル
設計者	山崎健治
施工	有限会社コロポ木造建築研究所

# Q&A

### 「コロポ夏梅による1邸インタビュー！」

このお家は、南東の角地という立地のため、必然的にリビング・ダイニングは南東に配置されています。そして、家族が集まるこの部屋は、吹き抜けがある広々とした空間となっています。また、将来的にはご両親と一緒に住むことも考え、1階と2階には納戸が付属した部屋、2階の子供部屋にもロフトと収納スペースを十分とっています。今回は、このお家の住み心地をコロポ夏梅がお聞きしてきました。

**Q** 「電気蓄熱暖房機」の使い心地はいかがですか？

**A** 「引越をした3月頃には、蓄熱暖房機のおかげで、朝から冷え冷えとした中で家事をする事が無くなりました」



蓄熱暖房機をリビング・ダイニングのほぼ中央部に設置し、上部にはサイクルファンを取り付けました。サイクルファンは、冬場には、暖房で暖められ上に溜まった空気を下に下げる事を想定しています。

**1** 暖房については、1さんがお仕事で多忙のため、奥さん1人では新割りやメンテナンスに不安があるといった事もあり、無理をせず当初検討していた薪ストーブから蓄熱暖房機に変更になりました。リビング・ダイニングには、2台を設置する用意はしてありますが、静岡県温暖な気候も考え、まずは1台だけ設置をし、様子を見ることとなりました。



深夜電力を使った電気蓄熱暖房機。中に入ったレンガが蓄熱材料となっており、蓄熱が完了してからジワジワと放熱していきます。

**Q** 掃除が楽になったと話しておられました。静電気が起こりにくいのか、埃が壁に付かないんです？

**A** 「静電気が起こりにくいのか、埃が壁に付かないんです」

**2** 壁がビニールクロス、床が絨毯だったアパートでは、静電気が起きてテレビや壁にたくさん埃が付きましたが、杉板の壁と床が多いこの家では、静電気が起こりにくいかそれがありません。



**Q** 暖房の熱を2階へ届ける通気用の小窓、その威力は？

**A** 「2階の子供部屋と和室には暖房要らずです」



**3** 2階の子供部屋と和室には、暖房機を置いてリビングに側、通気用の小窓を設けてあります。暖房機で温められた空気は密度が軽くなり上に上がります。そこで、2階でもその暖かさが利用できるような工夫を試みました。結果は、大成功！



ちなみに、この小窓は開けておくくと2階に声も届くので、お母さんが娘さんをお呼び、晩御飯の時に大活躍だそうです。

**Q** キッチンの使い心地は？

**A** 「自分に合った高さのキッチンなので、家事が楽です」



一升瓶の醤油を入れられる引き出し等、使う物に合わせたサイズに。

**Q** エアコンを入れる事を見送りましたが、夏はどうでした？

**A** 「ロフトの窓と2階の地窓のおかげで、サイクルファンだけで十分でした」



子供部屋にはロフトへ上がる梯子もあり、お友達と遊ぶ時はいつでも上に。

2階の地窓。

**5** この地域は常に風が吹いていて無風の時がありません。そのためか、2階に居る時は、ロフトの窓と2階にある地窓を開けると、下から上に風が通ったので涼しく過ごせるし、1階に居る時は、サイクルファンを回せば十分だった、との事でした。今までは、エアコンがないと寝苦しかった、暑がりの1さんもこの地窓を活用されているとか。2階の地窓。これが夏には有効なんです。

**Q** 夏場、心地よく暮らす工夫を見られましたか？

**A** 「東側の雨戸は朝9時まで閉めておくくと、昼間涼しく過ごせました。軒が深いので日差しを遮る事ができるのも良かったです」



**6** 東側にある1階のリビングは、朝日が昇ってくると部屋が暑くなってきます。ある時、朝少し遅い時間まで、東側の雨戸を開け切っていると、内部の壁や床の温度上昇が抑えられ、昼間も涼しく過ごせる事が分かったそうです。こんな、ほんのチョットした工夫で過ごしやすくなるというですね。断熱性能のある雨戸を選んだ事も、有効だったのかも知れません。



庭側の軒を深くし、夏場の日差しを遮るだけでなく、軒下の利用もできる。垂木の間隔を尺(303mm)と細かくしました。



奥行きを小さくし、カップやグラスを整理しやすく。

シンクの水栓も少し吐口が高い位置にあり洗い物が楽にできると、友人にも好評だとか。

## 心地よい生活が出来る住まい。

1さんはご夫婦と娘さんの3人家族です。打合せ当時は、横浜に住んでおられたが、娘さんがアレルギー疾患を持っておられる事や、奥さんが喘息になってしまった事で、空気の綺麗な土地に住みたいという思いがあったそうです。娘さんはアレルギー疾患がひどく、身体を掻きまわったり、空気が良くないと咳き込んだりしてしまいます。そのため、アレルギー症状を引き起こすような建材を使用しない住宅を建てたいという事から、コロポへの設計施工の依頼となりました。

日頃から、コロポでは、杉の柱と梁、壁は構造体でもある杉の落とし板と漆喰で仕上げ、床も杉板を使用し、建物内部の塗装は、天然のワックスやオイルを施すに塗装してもらった。この「丘陵地の家」も同じように、特別な建材は使用せず、必要な材料だけを使用して建てています。だから、心地よい生活が出来る住まいとなっているのだと思います。

引越してきた今では、毎朝出ていたという娘さんの咳も出なくなり、木の調湿作用も手伝ってか空気が乾燥して身体を掻いてしまう事もなくなりました、という事でした。本当によかったです。

この「丘陵地の家」は、施工打合せや発注、職人さんとのやり取り等、私が始めて経験する仕事が多く、色々な経験や勉強をさせていただきました。そして、他の現場とも工期が重なった事もあり、施主さん初め、職人の皆さんや事務所スタッフにたくさん助けられながら仕事を進める事ができました。ありがとうございました。(コロポ/夏梅真澄)